

会派等視察報告書

会派等の視察における結果について、下記のとおり報告します。

平成29年 7月27日

光市議会議長 中村賢道 様

光市議会 会派「彩り」 森戸 芳史
笹井 琢
田中 陽三
仲山 哲男
副議長 磯部登志恵

1 視察年月日 平成29年 7月11日(火)から
平成29年 7月12日(水)まで

2 視察先 徳島県神山町 (人口5300人 面積173km²)
徳島県上勝町 (人口1400人 面積109km²)

3 視察テーマ
創造的過疎から考える地方の創生
有償ボランティア輸送事業
ゼロ・ウェイスト(ごみゼロ)の取組み

4 視察結果 別紙のとおり

光市議会会派「彩り」視察報告書

日 時	平成29年 7月11日(火)15時～17時半
視察先	徳島県神山町神領字中津 NPO法人グリーンバレー及び町内
応対者	NPO法人グリーンバレー 理事長:大南信也 移住担当:伊藤友宏
テーマ	創造的過疎から考える 地方の創生



視察の目的

全国的に様々な地方創生モデルが生まれてきている中で、最も注目されていると言ってもいい徳島県神山町。人口も少なく交通も不便な山間部がなぜこれほどまで注目されるようになったのか。その経緯と様々な事業の取り組み手法について学ぶためにNPO法人グリーンバレーが行う「神山プロジェクト」の講習を受け、サテライトオフィスツアーに参加しました。

創造的過疎とは、過疎化を与件として受け入れ、外部から若者やクリエイティブな人材を誘致することで人口構造・人口構成を変化させたり、多様な働き方や職種の展開を図ることで働く場としての価値を高め、農林業だけに頼らない、バランスのとれた 持続可能な地域をつくらうという考え方。

事業の経緯

- 平成 2年 アメリカへのアリス人形里帰り運動を実施
- 平成 3年 神山町国際交流協会を設立
- 平成 9年 とくしま国際文化村構想を受け、国際文化村委員会を設置
- 平成11年 アーティスト・イン・レジデンス（芸術家招聘）事業スタート
徳島県OURロードアドプト（県道清掃）事業スタート
- 平成16年 「NPO法人グリーンバレー」設立
- 平成17年 町内全域に光ファイバー網整備（総務省補助事業）
- 平成19年 神山町移住交流支援センターの運営を委託
- 平成20年 情報発信ウェブサイト「イン神山」完成（総務省補助事業）
ワーク・イン・レジデンス（働き手と企業の誘致）事業スタート
- 平成22年 サテライトオフィスの第1号が開設
人材育成のための「神山塾」を開始（厚生労働省補助事業）
- 平成23年 町史上初、転入数が転出数を上回り社会動態人口増になる
- 平成25年 元縫製工場を改修してコワーキングスペース（共同作業場）を開設



神山バレー（共同作業場）



神山バレー内の徳島県庁神山オフィス

地域課題に対する取組と成果……「神山プロジェクト」

若者が古里へ帰って来られない。

『サテライトオフィス』(IT、映像、デザインなど働く場所を選ばない企業の誘致)

- ・平成29年1月現在16社が、サテライトオフィス設置・本社移転・新会社設立。
- ・新規雇用は計30名、数年後に30名程度の新たな雇用が生まれる見込み。
- ・エンジニアやプログラマーだけでなく、オンラインの営業部門も展開している。

サテライトオフィス

えんがわ

古民家を改装したオフィス

首都圏で撮影された映像の

編集やバックアップを担う



移住者を呼び込めない

『ワーク・イン・レジデンス』(町の将来にとって必要になる働き手や企業者の誘致)

- ・ビストロ、カフェ、パン屋、ピザ屋、靴屋、総菜店、ゲストハウスなどが開業。
- ・今までに類を見ないような中山間における商店街モデルを誕生させた。

地域を担う後継人材が育たない。

『神山塾』(厚生労働省の基金訓練、求職者支援訓練による後継人材の育成)

- ・訓練生の属性は、独身女性、30歳前後、首都圏出身、クリエイター系が多数。
- ・これまで6期77名終了。定住は約50%、サテライトオフィス就職は10名、婚活カップル10組誕生。
- ・平成28年3月に第7期実施終了。(町内4企業において34名が5か月間の訓練を受講した)

所感と光市政への反映


神山町と言えば、光ファイバー網整備によるサテライトオフィスの誘致成功例のイメージでしたが、アリス人形の里帰り活動や県道ゴミ拾い等のまちづくりの取り組みなど、想いと人のつながりがベースにある事にとっても共感がもてました。



元々地域活動家でもあった大南信也氏が、過疎地域の現状を分析したうえで、創造的に人・モノをつないできたコーディネート力が、民間・行政・地元の人とよそ者をうまくつないだ。「やったらええんちゃうん？」の一言で、個人それぞれのアイデアやあり方の実現も後押ししてホンモノが生まれる。そして「ワクワクする未来」の魅力で神山町に人が集まる、という良い循環が起きていました。

また、神山町版地方創生総合戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」の施策実現の為に、役場課長級による庁内戦略会議「神山町つなぐ会議」と一般社団法人「神山つなぐ公社」が一緒になって取り組んでいる仕組みに、とても共感できました。

光市が取り組んでいる制度をどのように活かしていけるのか、私たちもしっかりと考え、行動していきたい。

日 時	平成29年 7月12日(水)10時～11時	
視察先	徳島県上勝町大字福原 NPO法人 ゼロ・ウェイストアカデミー	
応対者	上勝町企画環境課参事 桑原定夫 ゼロ・ウェイストアカデミー 事務長 東輝実	
テーマ	有償ボランティア輸送事業	

事業の経緯

- 平成14年 町内タクシー業者が休業 さらに徳島バスから路線廃止通告あり
- 平成15年 有償ボランティアタクシー制度について国から構造改革特区の認定あり
社会福祉協議会が有償ボランティアタクシー制度の事業開始
- 平成18年 社会福祉協議会からNPO法人へ運営を移管
- 平成20年 過疎地での有償運送が国制度化、有償運送等運転者講習が始まる

事業の仕組み

- ・前日までに申込みとNPO法人から運転士に連絡がある。(当日でも一部対応可)
- ・タクシー料金の概ね1/2 町内発着ならば他市病院や徳島空港へもOK
- ・運転士は24名(うち常時対応は7名) 二種免又は有償運送等運転者講習が必要。
運転士の年齢は74歳まで。全員が兼業で別の仕事をもっている。運転士が所有する
自家用車を使用し、保険も個人加入保険で対応している。
- ・運賃は月末にNPO法人へ治め、同額を運転士に支払う。
- ・登録制で会員は現在約300名。町出身帰省客・行政視察者・棚田訪問客でもOK
- ・運営費用には会員加入金(年1000円)とシルバー人材センター事業費を当てている。

質疑応答

- ・どのような利用形態が多いのか?
町内に医療施設がないので、近隣医療施設
への通院と、それに合わせての買物が多い。
- ・小中学生の通学利用はあるか?
県道沿いに町営バスが1日7便走っており
通学は町営バスで対応している。



事業効果

- ・利用は年間約700回、1日当たり約3件。
- ・休日の予約運行や宴会後の送迎など、ニーズに応じて幅広く活用されている。
- ・合併や広域行政に呑み込まれることなく、町政維持したまま移動手段を確保した。

所感と光市政への反映

- ・民間バス、タクシー事業者とともに存在しない過疎地域の移動手段を確立している。
- ・個人車両や個人保険の活用、運営のNPO法人委託など、維持コストの低減化は参考になる。
- ・光市伊保木地区の運送事業の年齢条件が70歳迄となっているが、調査していきたい。

光市議会会派「彩り」視察報告書

日時	平成29年7月12日(水)11時～12時半
視察先	徳島県上勝町大字福原 日比ヶ谷ゴミステーション
応対者	ゼロ・ウェイトアカデミー 事務長 東輝実 パンゲア 禰津匡人
テーマ	ゼロ・ウェイストの取り組み



事業の経緯

平成9年迄 大きな穴を掘って焼却(野焼き)していた 不燃物は9分別リサイクル
 平成10年 小型焼却炉を導入
 平成13年 ダイオキシン規制強化による不適合となり焼却炉閉鎖 35分別を開始
 平成15年 日本初の「ゼロ・ウェイスト(ごみゼロ)宣言」議会全会一致で可決

- 1 地球を汚さない人づくりに努めます！
- 2 ごみの再利用・再資源化を進め、2020年までに焼却・埋め立て処分をなくす最善の努力をします！
- 3 地球環境をよくするため世界中に多くの仲間をつくります！

平成17年 NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー発足

事業の仕組み・・・「3つのR」

リサイクル ごみ収集車なしで町民自身で持っていく(高齢世帯等は運搬支援あり)
 生ごみ全量堆肥化 電動生ごみ処理機設置補助(町民負担10,000円)
 ごみの分別・資源化は34分別(ステーションでは更に45へ分別している)
 リサイクル先、処理費用、売却単価をゴミステーションに表示

リユース 「くるくるショップ」不用品リユースショップ 持帰りは町外もOK
 「くるくる工房」リメイク工房 鯉のぼり等を使った作品販売
 「くるくる食器」貸し出し用リユース食器 イベント等の無料貸出し

リデュース 分別や仕入の努力をパンフで見える化 町内店舗等6事業者を認定

質疑応答

- ・生ごみ堆肥の利用は？ 各自の畑で活用
- ・高齢者運搬支援の頻度は？ 2ヶ月に1回
- ・くるくるショップの取扱量とリユース率は？
 持ち込みゴミ13tに対し、持ち帰りは11tで約80%。



事業効果

- ・町予算のうち、ごみ処理費用は約570万円。
- ・リサイクル収入は約250万円あり、基金化したうえで子ども達の留学費用に活用。
- ・「愛郷心」「誇り」「世界と繋がる」といった町民意識の醸成になる。

所感と光市政への反映

野焼き時代から約20年、町民の理解と努力でここまでできるのかと感動した。光市の場合、費用はここまでは軽減できないにしても、努力の余地はあると感じた。ゼロウェイスト(ごみゼロ)の考え方を、光市内のコミュニティに広めていきたい。